

いくさの場にさし立つる

白旗みゆる其れまでは

劔をさめず砲おこな

三、天地はよしや暗くとも

黄金の鵒の光あり

大和男児の生血にて

み雪の色は染めざれと

勇みに勇むつはものゝ

いさほひいとも凄まじや

四、人と生れし甲斐ありて

君のみ前にひかりある

玉と散るとも瓦なし

残りはせじな國のため

進めやすめ諸共に

一歩もあとへは退くな

五、命はかるし義はあもし

さみの御爲めに雄々しくも

勳功を建つるはこの時ぞ

砲の轟きに関のこゑ

聴がて金鵒の勳章に

錦衣かざらん父母の前

俳句披露 (集句二百十章)

題に限つたせいと比較的よい句の集らなかつたの甚だ残念でした御約束の通り天地人の三名に賞を送りました

葉櫻になりて歸るや新夫婦	横濱	まつ	枝子
新築の家や乙鳥も日になるゝ	全	ひ	さ子
投げ込んだ文や櫻の花だより	全	ち	よ子
はるぐと來た振りもなし初燕	全	全	
武威高しいくさに稀れな組元節	埼玉	松	年
酔いさめて寒し日暮の山櫻	千葉	は	な子
見覚えのあるや乙鳥の飛ぶ姿	全	全	
金はかる音には馴れて乙鳥	東京	久	米辰子
咲き満ちて乳や囁さん姥櫻	全		

